

国際協力シンポジウム「世界の中の日本の役割」(災害復興と国際貢献) (実行委員会主催)が5月30日、広島市中区の中国新聞ホールであった。自衛隊と医療ボランティアの代表がハイチ大地震の被災地で展開した救援活動を報告し、有識者を変えて官民連携の必要性や日本の果たすべき役割を述べた。基調講演とパネル討論を詳報する。コ



海外で展開する救援活動での官民連携について意見を交わすパネリストたち

「詳報」国際協力シンポ「世界の中の日本の役割」

「自衛隊が海外で救援活動を展開する上で、治安の悪い状況で隊員の安全をどう確保して活動するのかが大きな課題だ。」
中村 言葉の問題のほか、大部隊のために派遣までに時間がかか

パネル討論

ハイチ支援 官民連携



なかむら・のりあき 1982年、防衛省(現防衛省)入隊。人事計画課長、をりあき 51歳。山形県出身。

中国四国防衛局 中村範明局長
国際医療ボランティア団体AMDA 菅波 茂代表
広島大大学院国際協力研究科 平川幸子准教授



ひらかわ・ゆきこ 1979年、文部省(現文部科学省)国際交流センターで99年入学。学術企画官として1984年に退職。53歳。静岡県出身。

菅波 緊急支援の当初段階から重機を現地に持って行き、がれきを取り除いたり、トイレや手術室などを造ったりするなど、大がかりなものを自衛隊にやってほしい。非政府組織(NGO)ではできない。
中村 ハイチでの具体的な活動内容を聞かせてください。
菅波 国際協力機構(JICA)の医師から活動や資機材を引き継ぎ、それを日本赤十字社に引き継いだ。今後は、こういう民間との協力が増えるのではな

中村 組織力や訓練生かす 菅波 ネットワーク積み重ね 平川 阪神大震災が転換点

組織と連携できる。自衛隊しかできないのは「慰霊外交」だ。インドネシアなどに行つた際、日本兵、インドネシア兵が亡くなった地に行き、慰霊祭をしてほしい。信頼関係が強まり、「歴史を忘れていない」ということが相手への敬意になる。
菅波 海外で活動する原動力は何でしょうか。
菅波 NGOは人を助けるのが好きな人がやっている。国際社会で一番大切なのは義理人情だ。世界各地の支部からリンクエースがあれば必ず引き受け、私たちが電話をかけたなら向こうも必ず動く。その積み重ねがネットワークになり、迅速な支援につながる。
中村 自衛官は、命令があればどこにでも行くという覚悟を持っている。国連平和維持活動(PKO)や国際緊急援助隊で支援に向かうのは、国際貢献というより、国際社会の平和と安定に積極的に参加するわれわれの義務と想っている。
平川 海外援助の任務を希望し、自衛隊に入る人もいます。
菅波 日本では15年前、阪神大震災がありました。救援活動での教訓を聞かせてください。
菅波 AMDAは、延べ1500人の医療従事者を被災地に派遣

した。一番大切なのは、いち早く現地に入り、「あなたたちは見放されてはいない」というメッセージを届けることだ。絶望状況で怖いのは「自分は見放されたんじゃないか」という恐怖だ。
二つめはローカルイニシアチフ。1500人もの方がよい活動できた理由は、地元を知り尽くした保健師がいたことだ。
平川 普段は、自衛隊と市民生活は関係ないと思う人がほとんど。災害緊急援助は、その地域の市民は来てくれてありがたいと思うし、テレビで紹介されることで国民の認識が変わる。その転換点で、阪神大震災だった。
中村 今後の救援活動について展望を聞かせてください。
中村 自衛隊にNGOや海外から寄せられる期待は、われわれが考えている以上に大きいのではないかと実感した。それに応えるだけの態勢整備に積極的

(文中敬称略)

クリック
AMDA(アムダ)国際医療ボランティア団体。菅波茂代表がアジア医師連絡協議会として1984年に設立。災害が起きたり、紛争で難民が発生した

陸上自衛隊第13旅団後方支援隊 白川 誠隊長

基調講演



しらかわ・まこと 1等陸
佐。1984年、陸上自衛隊入隊。防衛省陸上幕僚監部兵器化学課を経て2009年から現職。48歳。宮崎県出身。

22日間で計2954人治療

ハイチ大地震は現地時間
で1月12日に発生し、死者
25万、30万人、負傷者約3
00万人の被害が出た。自
衛隊の国際緊急医療援助隊
は、私を隊長に陸上自衛隊
第13旅団（広島県海田町）
の隊員や医官を中心とする
約100人で編成した。1
月23日、首都ポルトープラ

ンスの西約40キロのレオカン
市に入った。
レオカン市は、死者3千
人、負傷者1万人に上った。
既に国際協力機構（JICA）
A）が活動を始めていた。
援助隊は、日本赤十字社に
引き継ぐまでの22日間、医
療活動をした。

学部内。被害の少なかった
宿舎や食堂を使った。警備
はスリランカ軍が担当し
た。公用語のクレオール
語しか話せない患者がほ
とんどで、英語を話せる人
の現地雇用や、看護学生の
通訳ボランティアで対応し
た。

活動拠点は大学の看護
医療活動では、震災から
10日以上たつても骨折の患
者が初診に来る状況だっ
た。1日平均約140人、
22日間で計2954人を治
療した。後半は、内科系の
患者が増加した。持病のあ
る人が以前から適切な医療
を受けていなかったから
だ。

隊員の生活環境につい
ては、水の使用時間に制
限があったが、比較的恵ま
れていた。隊員の作るカレ
ーやポトフが活力になっ
た。

レオカン市ではJICA
から自衛隊、日本赤十字社
へと、「日本チーム」として
切れ目なく活動できた。他
国の非政府組織（NGO）や
軍の医療部隊と連携できた
ことも有意義だった。一日
も早い復興を祈念してい
る。

AMDA 菅波 茂代表

市民外交展開したい



内科（岡国日員
会）公設委員
長。岡山神
戸市保健
局長。福
山大学保
健学国際
大会。63
歳。福山
市出身。

AMDAは「市民参加型
人道支援外交」を掲げて活
動している。中核となる考
えが相互扶助。「困った時
はお互いさま」という日本
の常識は、国境を越える。
ハイチ大地震の支援活動で
も実感した。

AMDAは、ドミニカ共
和国に拠点を置き、約2カ
月間活動した。7カ国の支
部から医師や看護師たち
延べ35人が参加した。足
を切断する手術をした負
傷者は約4千人に上った。
被災で医療機能が崩壊し
て手当てが遅れ、傷口が
化膿するなどした。自衛
隊が立ち会うことで、世
界での日本の評価は高ま
る。

市民参加型とは、緊急支
援後の復興時に市民が現場
に入っていく形だ。ハイチ
ではまず義肢プロジェクト
を進める。日本で義肢器具
を集め、脚を失った被災者
に提供する。
もう一つはスポーツ。広
島と岡山、ハイチの子ども
とドミニカ共和国に行き、
野球をしたい。西国だけで
はできないことが、日本が
入れれば可能になる。
これらを進めるために
は意思が必要。岡山県は「国
際貢献活動の推進に関する
条例」を定めている。県
民の意思として国際貢献
がある。これを背景に市民
外交を展開できる。今回の
活動を通して確信した市
民参加型人道支援外交の
コンセプトだ。